



2019年度 事業報告書

NPO 法人 CIL ひこうせん
理事長 田島 隆宏
電話番号 048-555-1100

1. 事業の成果

2019年度は、設立15周年の成果の上に、これまで実施してきた事業をさらに発展させるべく、取り組んできました。

今年度、重点的に取り組んだ事業として、ひこうせんの運営体制の強化に向けて、リーダー研修を開催しました。ひこうせんのリーダーを希望する方たち20名が参加して、これからのひこうせんの運営に何らかの形で関わっていただく人材を育成することができました。

しかし、10月19日の台風19号による被害や2019年末からの新型コロナウイルス感染に対する対策を余儀なくされるなど、ひこうせんの「誰もが、自分の夢を実現できる社会を目指」すという目的の達成に向けての避けては通れない課題も明確になりました。

台風19号では、「ぴーす」が床上浸水の被害を受け、市内各所の水路が決壊寸前となり、「6つの夢」「ほうき星」の入居者及び危険区域で自立生活を送る方々には本部棟に避難していただき、1夜を過ごすなど切迫した事態にもなりました。幸いにも本部棟が避難所としての役割を果たせ、市内の避難所が障がい者の避難に対応できない状況も明らかになりました。

新型コロナウイルス感染症は、政府から緊急事態宣言が発令されるなど、これまでにない全世界規模でのパンデミックとなり、事業所としての存亡に関わる事態にまでなっています。ひこうせんとしては、この事態を重要に受け止め、2月末より感染予防の体制を整えて来ました。「感染者をひこうせんから出さない」という強い決意の下、職員・アシスタント・メンバー一体となって、感染予防に努めて来ました。5月25日に緊急事態宣言が解除され、ひこうせん関係者から感染者はありませんでしたが、今後の運営には大きな影響を与えるものと思われます。

このように予期せぬ、避けることが出来ない自然との闘いが発生したことは、「誰もが、自分の夢を実現できる社会を目指」すための支援ができるひこうせんを作っていくことが、障がい者の自立にとっていかに大切であるかが示されたと言えます。

各事業の成果は次のとおりです。

① 自立生活支援事業

自立相談室「キムヒロ」は、専任の相談支援員の下、法人内外から利用があり、利用者97名に対し、自立相談を実施してきました。各自治体が支給量の削減を行おうとする中、自立相談室「キムヒロ」の的確な支援により、個人が、安心して自立生活を送れるよう支援をすることができました。

「第2期ひこうせん ILP 講座」全5回を7人の受講者で開催し、受講者から好評を得ました。自立に関する相談を障がい当事者がカウンセリングし、個別の悩みの解決の支援を行ってきました。

② 介助派遣及び移送サービス

介助派遣事業では、地域で自立生活を送る方たちの生活を支援すべく、全力で取り組み、サービス提供責任者の配置やアシスタント・職員ともに質の高い支援が行えるよう、質の向上を図ってきました。地域で自立生活を送る利用者も増えてきている中、サービス提供責任者、アシスタントともに、慢性的な人手不足の状態でしたが、関係者の献身的な努力で、事故無く、支援が出来ました。

行動援護研修指定事業所となり、資格を取得するヘルパーが増え、スキルアップに繋がりました。また、派遣業務の他、ご利用者様個人々々の問題等での対応、より困難なご利用者様への対応が増えるなど、専門性が求められるようになってきています。

③ 障がい者・高齢者及び児童の権利擁護活動

相模原障がい者施設殺傷事件を始めとする「弱者」に対する虐待を防ぐべく、内部の虐待防止研修をはじめ、障がい者・高齢者及び児童の権利擁護活動を行ってきました。

虐待防止対策として、虐待防止委員会の開催、全従業員（職員・パート・アシスタント）を対象に、全体研修1回、ワークショップ形式の研修1回、計2回の研修を全職員、アシスタントが受講するよう実施してきました。

④ 福祉、教育、まちづくりへの啓発・提言事業

福祉の店「きゃんばす」の運営など市内障がい者団体と協働して、福祉施策の促進を図りました。また、ふれあいまつり、スポーツレクリエーションなどの催しに参加し、市内福祉団体との連携・交流を深めました。

まちづくりでは、行田市公益活動推進委員会に引き続き参加し、積極的にまちづくりに提言を行いました。忍町アートギャラリーは、市民が楽しく参加できるイベントとなるよう、行田の市街地をアート化するための活動を行いました。今年度は、行田市制70周年事業としてひこうせんを中心として提案した「城の絵手紙展」を開催し、全国から絵手紙の参加者が作品をおよせ

いただき、行田市の活性化に協力しました。

⑤ 障害者児福祉サービス事業

就労継続支援 B 型、生活介護、自立訓練とサービスの種別による取り組みの違いを利用者のニーズに合わせ、より明確になるよう努めました。入浴サービスや機能訓練・生活訓練など必要なプログラムや、自前の厨房による昼食の提供を実施しました。昨年からは開始した一日 2 回のラジオ体操もメンバー自らの運営で今年度も実施してきました。

メンバーの工賃アップや訓練として、アート作品やクラフト製品の製作、カフェの経営、内職の受注、リサイクル事業などを行ってきました。A 型事業所設立に向けて、収益性を重視する事業の開発を行い、オンラインショップを含むサイト「アンフィニ」を開設しました。

「amp かわいいサミット」は、2019 年度も八木橋様のご好意で、開催することができました。多くの事業所に出店いただき、沢山の皆様にご来場いただき、今年の売り上げを上回ることができました。

共同生活援助・絆では、多様な入居者の要望にできるだけ対応しながら、安全、安心に生活が続けられるよう取り組んできました。世話人会議を月 1 回開催し、ホームで生起する諸問題の解決を図り、台風 19 号などの自然災害が発生しましたが、無事に過ごすことができました。

新たに取得した土地に、生活介護とショートステイを組み合わせた多機能型の事業所の設立を目指し、助成金の申請を行い、新年度の決定を待つのみとなりました。「こころ」の耐震化は、今年度では実施できませんでした。

⑥ 児童福祉法に規定する児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業

日中活動の「自立訓練」とも連携しながら自立に向けた個人支援計画を作成し、療育を行うと共に、自立を見据えたひこうせん独自の日常活動プログラムの確立を目指し、事業に取り組んできました。

⑦ その他

広報として、ひこうせん通信を年 12 回発行し、HP、フェイスブック、ブログなど SNS を駆使した広報に取り組みました。

福利厚生を図るための「みんなの広場」、「クリスマス会」、などのイベントも、みんなが集まって楽しめる場として、実施しました。ミニツアーは、「楽園づくり」に合わせ、イベント型のツアーに変え、「エキサイティングツアー」として実施しました。埼玉県の実験施設「潮風館」に、大型バスを利用して、気軽に宿泊体験ができるよう、1泊親睦旅行を 3 回企画し、うち 2 回は実施しましたが、3 回目は 3 月に予定していたため、新型コロナウイルス感染予防のため、残念ながら実施できませんでしたが、2 回の参加者からは、「楽しかった」「また行きたい」と喜んでいただきました。